

500

経営編



520 経営分析

 522 経営分析  
の基本(Ⅱ)

# 経営分析の基本(Ⅱ)

## －「貸借対照表」による安定性分析－

経営編 521「経営分析の基本(Ⅰ)」では、財務諸表から経営診断や分析を試みる際の基本的フレームについて述べた。今回は「貸借対照表」による安定性分析に焦点をあてて、診断・分析への適用についてポイントを説明する。

### 1. 「貸借対照表」について

貸借対照表は決算期末時点での経営体の財産や財務の状況を示すものである。その適用内容として、経営財務の安定性や、牧場の資金調達と運営の内容がどのようなものかをみることができる。資産の部には運用状況が、負債・純資産の部には調達状況が示される。

**【貸借一致の原則】 資産＝負債＋純資産**

#### 「貸借対照表」(Balance Sheet, B/S)

〈資金の運用〉		〈資金の運用〉	
資 産	流動資産	流動負債	負債
	固定資産	固定負債	
	繰延資産	資本金	純 資 産
	事業主勘定		
		当期純利益	

#### (1) 資産項目

- ① 流動資産：1年間以内に資金として利用できる資産。当座資産(現金預金、売掛金など)、棚卸資産(売却予定の育成牛、生産資材、貯蔵品(堆肥・自給飼料)など)からなる。
- ② 固定資産：有形固定資産(乳牛、土地、機械、建物、育成仮勘定など)、無形固定資産、投資資産からなる。後継牛の自家育成に要した費用は育成仮勘定に集計される。乳牛、機械、牛舎のように使用することで価値が減耗される資産(償却資産)がある。そのような固定資産の簿価は取得価額をベースに減価償却した後の残存価額があてられる。
- ③ 繰延資産：費用の償却に数年を要する土地改良費などが該当する。

#### (2) 負債・純資産項目

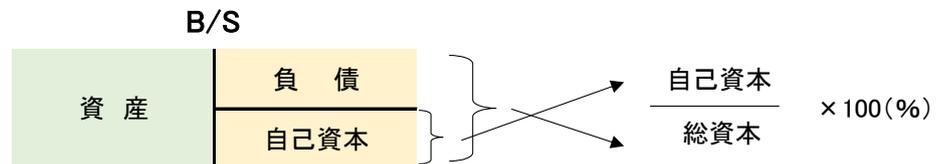
- ① 流動負債：1年以内に返済しなければならない借入金残高(短期借入金)、買掛金、未払金からなる。
- ② 固定負債：1年以上の返済期間がある借入金残高である。
- ③ 自己資本：返済する必要のない資本であり、出資金(資本金)、当期純利益、事業主勘定などからなる。貸借一致の原則から、資産－負債によって算出することができる。

## 2. 安定性の分析指標

財務の安定性を分析するときに用いるいくつかの指標をあげ、その基本的考え方について述べる。

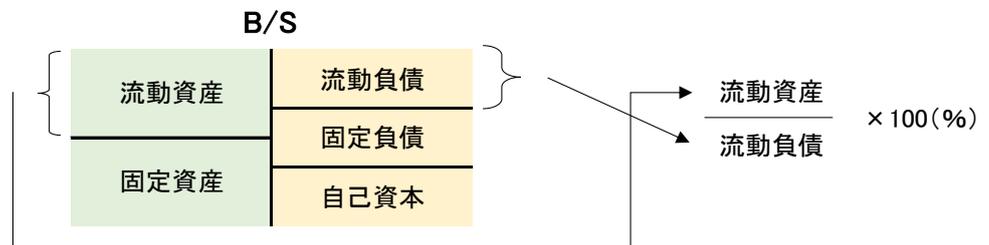
### (1) 自己資本比率

この比率が高いことは財務基盤が健全かつ安定していることを意味する。しかし、100%が最も優れているということではない。100%に近いということは、財務は安定しているが、経営の発展性を考えたとき、自己資本が経営発展の運転資金として有効には活用されていないことを意味するからである。【指標値(めやす) 30%以上】



### (2) 流動比率

短期で資金化できる流動資産と、短期で返済する必要がある負債との比率である。短期の資金繰り分析するもので、対外信用にも関わる指標である。【指標値(めやす) 100%以上】



### (3) 固定比率

固定資産と自己資本との比率で表され、固定資産投資の適合性をみる指標である。固定資産は短期間での資金化は難しいことから、この指標より資金繰りの実態もみることができる。例えば、フリーストール牛舎や搾乳ロボットなどの大型施設投資をした場合、それら投資資産がどれほどの自己資本でまかなわれているのかということである。投資した固定資産が自己資本の範囲内であれば安全性が高いと分析できる。【指標値(めやす) 100%以下】

